

植物の精密描写に没頭

ボタニカルアート 西会津の齋藤さん



ボタニカルアートに取り組む齋藤さん。「私の生きがい」と語る

エイジレス ふくしま

西会津町の齋藤秀一さん(76)はサクソス演奏や、自宅で木材や金属を加工するDIYなど多彩な趣味を持つ。中でも没頭しているのが植物を实物通り写実的に描く「ボタニカルアート」だ。自宅には色鉛筆と水彩絵の具を駆使して描かれた鮮やかな作品がずらりと並び「今や私の生きがいだ。細かい作業が好きで自分びったりの趣味」と笑う。

帰国後、早速挑戦してみしたが、最初は植物のみずみずしさを表現するのに苦労した。それでも回数を重ねるうちに細かな繊維まで描けるようになり、いつしか自分なりの技法も身に付けた。

(三沢誠)

の教諭になっても休日には時間を見つけてその土地の風景を描きに出かけるほど。「仕事で疲れた心を癒やすのにちょうど良かった」と振り返る。

ボタニカルアートとの出会いは福島大付属特別支援学校に勤務していた時。研修で世界の教育現場を巡る傍ら、各地の美術館を訪れた。そこには本物と見間違えるほど繊細に表現されたボタニカルアートが展示されており、あまりの美しさに目を奪われた。「今までにないほど心が和やかになった。そこには本物と見間違えるほど繊細に表現されたボタニカルアートが展示されており、あまりの美しさに目を奪われた。『季節ごとに展示会を開きたい』とささやかな夢を膨らませている。

出合いは海外展示

高校時代から絵を描くのが好きだった。大学を卒業後、小学校や特別支援学校関係の活動も一段落し、よ

絵は人生を豊かに

▲ 7月2日 福島民友新聞掲載

齋藤さんがボタニカルアートにいつ、どこで出会い、その時どんな気持ちになりましたか？

ボタニカルアートは、齋藤さんにとってどのような存在ですか？

記事の見出しに「精密描写」とありますが、ボタニカルアートの特徴や作品の種類について調べたり鑑賞したりしましょう。